









て本國の海運に對し各商工業者は固難一すべしに於ては鐵道の  
延長も同業者をして益々密接せしめ、更に互に生存競争を  
爲されしむ可しと云ふ事じふた、蓋してワラストの前身と稱す  
可なりプルース(派)と云ふ意にして數人の小結社集りて大結社を爲す  
と恰も細流の集りて一面に大水と爲るが如く、と云ふは喩へたる  
ものなり。然るもの集出せられ以て當事者自ら救済せんとかんた  
プルースの主旨とする處も各製造者は生産額を一樣に削減し  
價格を同一にし且つ場合によりて共同販賣人を選ばしむるも利率  
を一定し若し此等が約より反く者なりと爲る之より巨多の違罰  
料を徴せしむるにせしむる、各事業は何れも競争に預り  
不景氣なアゲも度々あり、此法は實に田滑も行はれ終る各

商工業業者とも之に依りて十分利益を享け得る中よは全  
專賣の弊を避けるに法外の大利益を占取するに至るなる  
ものなりかす。

然れどもプルースを以て尚ほ未だ足らざるやあり、第一資本の  
大なるを以て依るの利を、事業の統一を計るに難く、生産は  
の節約を企てば金貨の意見に制せらるゝの惧あり、他事業に  
對する威力強かば大手腕を揮ふための餘地を存せざる。  
茲に於て新文明の傾向に於ては尚ほ大なる足らざるあり  
茲に於てワラフルに於ては木材物あり、木材物は見る組織  
的の木材能を限るプルースの長所と短所とを具に比較  
衡量し且つ新文明の発達も恰も適應するものなり。











現きまり其勢を駁す所し可なり

利害は相俟随もつたものなり其實はみをも奪ち又た旧来の觀念より之を奪ち收むる英國某政治家は所謂社會絶域の大悪魔と云ふを以て觀ありと云ふを以て今も未だ創始の時代は屬し組織して歎くも處あり又た官能の十分發揮せられざる處ありと蓋し其れ然る如くありと云ふを見も然れ果又た翻て新文明の趨勢と其組織動作を以て考ふるも其利の大なる其の害は天をも凌ぐとして更に大なるはみありと云ふ其利も益大なり赴き其れ害を益しありと云ふを得るは傾向ありと較べると事なり可なり

### ○種類

專賣を主とする結社同盟の種類少く今之を分類せむ左の如し

## 第一種確固な規率ありとの

(一) 競争の事情より之を定むる一般平等の利益の爲め設立する同盟

例へば現法改革を目的とする醸造者同盟の如し料理人組合銀行組合大抵此の部類に屬し中にも臨時相互に危急を救ふ爲め積立金等を爲すものあり

(二) 前項の規約を爲すより更に高業慣習定價表度量衡等

の事より固より規約を定むる同盟

シカゴの家畜食肉業者は同盟は如此種にしてイリノイは其の他数州の食肉業者も其の同盟員なる四個高店の専有する處あり右四個高店は各別々其業を営みとも堅く協議の上畜類は



買直と内類の賣價を一定して敢て動ふとも偶々變賣する  
も其も四六共同しと之も當りて他人せしめて一處も其の業務内と  
立ち入らざるを得ざらんや、紐育牛乳商組合醫師及代官人の  
組合事も此の種類に准じられんや

(丙)定期の集會を同れて代價及生産額を一定し或は共同代理  
人を設けて各製品を販賣せしむる同盟

此同盟も多年石炭業者の間に行はれ居るを以て無煙炭  
採掘業者は團結せしむる其れ一多其の他鑛道業者は中  
しと此種の盟約を爲せとの少るに止し此等は仕方と思  
ふ第二の種類に接近しプールに轉じたるものあり

第二種形式上の規定を定めて或は制裁法を設けて束縛を嚴にし

たると此即ちプール也

(甲)生産額販賣額及び市價を議決し口頭或は成文上に規  
約せしむる同盟

千八百八十七年石油精製業者と石油産出者との間に締結した  
る產出制限契約の如た此種に入るものにして其他諸部業  
業の最低卸直上同盟も規約の如きと皆此類なり

(乙)罰金徴收は法を定めて或は規約を嚴行及び共同利益に増  
進し或は積立金の法を定めて一層束縛を密しむる同盟

鐵工業鑛條業の組合も違約者へ罰金を課せしむるのほそ  
積立金の法を實施し居るを對合杜の如きものあり此の会社  
は統計米國需要高は還半以上を製出する對合製造人の團結



も成り其の金算れ自己の蒙出高千枚毎に若干の金を積立つ  
斯くて購集せられたる金も發行者を買つたを爲め或は新  
奇の特許を得る爲め使用せられ残餘は未だ株高に充  
て割戻しを爲すあり

(丙) 一年賣買に報酬として割戻しを爲す同盟

英國煙草會社ウサスキーウラストの如く、其れをた若くを組  
合員のより買入る意先封じて特許の大割戻しを爲  
す可なりとを約束し居るあり

第三種金利並に同一を目的とするもの

(甲) 箇人的營業を實際に若くは公義上けり、保存せり、結  
社即ち本ウラスト

此の二種あり

(イ) 諸會社株式過半以上をウラスト當業者に譲與し、業  
務の全權を以て其の代償としてウラスト証券を受取り  
以てウラストを設立せしむる也

(ロ) 各製造所は債権を相當の額を以て譲與し、且つ増餘は証券  
を受取り、此の株式金額をウラスト當業者に譲與しウラスト  
當業者は之を封じてウラスト証券を發行せしむる也

(ハ) 無條件を以て全財産をウラスト當業者に譲與し、代償と  
してウラスト証券の交付を受ける也

ウサスキーウラスト(ロ)馬ースターダート石田ウラスト(ハ)  
も屬する種もあり其のことも處々同じきもの唯だウラスト



當業者一対に信託し厚薄なく此れ如き差異を生ず  
るあり

(乙)各業者は全く融化合一せられて更なる大結社となすこと此の組  
織も實際所謂のウラストと異なる處ありと雖も其の精神  
も全くウラストに胚胎せられたるものあり

(丙)一時は實情に依りて合一せらるゝこと  
此種融合一法は舊來の當業者間に行はれし殊に鐵道  
業者も多かりけり

(丁)永久の合一をもとめ  
此の内より四種あり

(一)全部を統一せしむ

(二)株式の所有權を統一し其の會社は全權を有し以て業務  
を全一せしむ

(三)完全同一にせしむ

ハツカキとウラストと製造所の如に三社を合併したるも

のち

(四)既設の會社を融化して新より大會社を設立せしむ此  
の組織はたゞと或る製造所を全く幹部と依りて支配す  
る或る製造所と其の事情に從て或る支社となす  
或る支社の獨主營業を許さざる事あり

或る支社(四)より屬する諸會社もウラスト林業止條例に  
當りてウラストに委相したりとせしめて其の精神と







……社債も自然……會社の新債を……  
……又た右代理權も……無制限……事務局……  
……株主の意見……  
(乙)若株主を保護し其利益を普通……  
……事務局を受領の會社株式……  
……全會社の利益……  
……配分……  
……社に利益……  
……全利益……  
然れども……  
……會社の個人……  
……利益……

……一團に……  
……其間の多数……  
……前々……  
……集會……  
……難……  
……要……  
……契約……  
……定……  
……市……



また、事として精細の事情も之をより由あると大抵は  
評価委員を選び之を全権を委託具は決定し、封して  
他より異見を押しを得る事と定められ、一九  
二九年（昭和四年）米國綱目ツラストの再興された時  
評価委員の議定したる評価方法にたれ

工場機械果の評価法も諸多に標準より資本確  
ある會社株主の觀察点よりそれが一個完全なる有  
用有利の財産として積算せざる可い又た右會社  
は対外的債主より之を自らのもの様と評價の標準  
とせらるる也

第一綱目並並を繼續するの目的を持て相當の價格を

附し喜んで全財産を明收する購案より原則は據るもの  
第二相當の價格を以て財産全部を買収するも之れ無きも  
之を分割して數賣し附されを各別購入せんとも買  
手より之れ原則は據るもの

第三前後の事情と因せを期日を定む各別別に續  
續して賣却するも此原則は據るもの  
然れども第一、第二の場合も殆んど實際に於ては  
可なりとて評價委員も第三の原則は是より現時  
に於ては工場地の價格乃至工場の建設費裝置費  
を精確に算出しまし、建設後時日に経過し依  
りて減價したるかを控除し以て右會社の純財産價







養天振百端著面ししてを行し之を本標主は滾興標高し  
秋創して今割ともあり續て株式総會及び復選會を  
司り會社事務細則を定む之れをウラストも成さるるなり  
ウラスト當業者が實務に第一として着手せしむる製造所  
の生産力を檢定し決りて諸製造法の優劣を比較せしむ  
りて其調査を終りて結果分明せしむ其内は最も利益  
ある製造所と許て最も輕便なる製造方法を採りて當  
業を開始せしむるあり本業より緒々然るも彼等も亦其  
密接な關係あり諸般の業務の改良を施行せしむ躊躇せ  
ず即ち副産物の改良利用荷造原料の製造運輸を輕  
便せしむる事販路の擴張支店の設置直銷式を以て

研究等も直に始めしありウラストの競争を激し專責  
の實を興ずんと力むる實に非常なるものにしてウラスト  
は加へて當業者なるもの之を封じ激烈の競争をあ  
し加増せし減亡してせむんばせむるを害品の品位と價格を  
以て顧客を争ふに固より或はは棄料を興へて同業者は  
業せしめ或は原料產出者へ報酬を與へて取引を断たりむ  
るのみあるも其勢力の大なる關係の廣きとは馮りて而て好  
窮迫の筆を講し甚だしむる暴力は許さる事ナレバウラ  
スタンダードウラストの如きも或時ダイナマイトを以て其勁敵ある其  
精油所を破壊せんと企てたる事ありと云ふ又た未だの敵を  
まゝ力むるも甚だ周到にしてスタンダード石油ウラストの如きも當



て其生産地より新起業者現れたる時高給を懸けて其地方全体の穿坑人々と雇揚げ終る右起業者とて其希望を抛棄するの已むを得ざるに至らざらん。又其封鎖のウラストの如きも常々其器械製造者、餘分の贈與を爲すといつた以外の人は爲め右器械を製造せしめざる事と結約し居しより其他のあり方方法より其競争者を減却せしむるの手段として之れ強ひ餘り盛ん又たなるも費用を以て労苦をも厭ふるあり小資本として成れば可き業務及び器械力を要する事少き事業となりて競争の勢を制する事難しが爲めウラストの成立甚だ困難ありスロニグード石油ウラストの如き其原産地の所有區域廣く又た未だ原油汲取<sup>せん</sup>

は然るにして爲し得るべき爲め動かし難く多量の競争を要する自ら守るべき事をなす事少きをなすなり高利の最も敏捷なる米國人民の事業ありし故に其競争者も直ぐ前面に現れざるあり現る米國に於ては或るウラスト中競争者を招きざるも一とありとあり多量あり其煩を減して免る可し故にウラスト組織の最も成り易く天然及び人爲上専賣の事情を具へ得る而し工業と或は大資本を要し或は大労力を要し或は複雑なる施設を要し或は大運輸費を要する等の工業製造業あり然れ共ウラストの効果を要するも必しも其業務全体を占有する事を要せず國內製造者其輸出額の過半數を一括し得るを得ん其



同仍を達するを得可し人数若くは在籍の六割以上を以て  
と爲すれを其後主たる行を割るは勢を止じたる競争  
者に殺法を勿論又た競争者を眼中に置かず其計  
畫に通行し得るなり現存はウチスキーウラストと七割を砂  
掘ウラストと八割を綿油ウラストと八割を供給し得るもの  
其勢力も實に強大なりと定むるも會員なるを認むる  
共々人数も満ちたなり其目的を到達し得るものなり  
運輸の自由は競争の二因にして競争もウラスト發生の二因なり  
故に鑛道とウラストとを最も密接の關係を有し其學者の如  
くは鑛道と此關係の有否一因でウラストの分類法を定むるに  
難あり石油ウラストは全く鉄道を以て利用したるものなり成り

したるものにして其他此類はともなは無き暇あり然るも茲に  
一の注意をすべき以前に經濟社會の原動力專に鑛道に在り諸  
多の商業組織と之を左右せしもの有様なりをウラストの組織行  
動と爲すは後述の商業の力違ふ大に赴き却て鑛道を動力  
と爲すは之を反之なり即ち前者より鑛道主として商業従  
ありしを今も其位置顛倒して商業本となり鑛道も唯だ之  
に隷屬する純粹の運輸機械と爲るあり然れ共之れに過ぎず  
正經のみ人事上正當の事なりはみ何と云はれは商業ありて後  
より運輸より可なりと云はる運輸より可なりと云はる運輸より  
後より商業より人事の順序を顛倒したる事ありと云はる  
鑛道若し新文明の要具ならむとウラスト亦た其第一たるもの



を思ふ

### ○内部の組立

事務員は配置し各ウラストも大抵同一にして其首の権限  
無遠は社長を現し其下は所謂ウラスト常務者なるハ  
至二三名の役員を統率し實務は大抵會計及び技術の二  
部に分ち更に其下は販賣掛、買入掛、技術監督掛等の専  
任委員あり

ウラスト事務局即ち幹部は原料買入製品の代價を定  
むる大注文に應ずる支差を主務とし支部の直接は  
小額の注文を現し支差を力む又規模小にして堅産費高は  
痛恨は其下は其下之を拘鎖し品と利を分ちみよ

カを運用

所謂幹部は支部の間には此般の交通断ちの支差なく販賣  
高販賣高は倍高の如き日々明確あり然るに依りて相  
互に間を通照し其間一事は間隔も支差ありと云ふ  
得たウラスト事務局が右支部即ち旧會社に權限を許す  
の廣大も實に意外にして何れも強て他は審判あり別個に  
一會社にのみ觀望をせしめ而して幹部常務等の敘法も亦  
更に復た此獨立の制度を最も切に運用し一方は於て重  
大は責任(業務)の失敗のみならず巨額の過料を課せし支  
差あり(支差)を罰せしむるを以て他方また於て生産改良經  
費節約等にも就て支部は同一競争の精神を鼓舞



資力し其れ操縦の巧みと驚く絶えたり  
元来ウラストは合資会社を造つた者として其内部の組  
織關係は互々相類似する其唯だ操主より重役と所長を  
権限を定めて其大小は差あり比較正可いである  
従来合資會社になりて其會社財産の所有權及び營業  
の方針を決定する等操主より即ち共和主義組織の  
此長短ウラストも定めて然るも營業の方針處理は固  
り初不動產は所有權を操主に全く營業者は存  
在も其上一一言を定むる能く専制主義に依りて  
其まじりたり唯だ操主が營業者に對して有る力  
を以て**選舉權**あるの如く同く營業者も正しく選舉權を

必しも專制君主と云ふも異なり而して斯る有るもの故に當  
業者は選舉するものと其れ大信にあり大に能く思慮確う  
經驗深き一流は實業家あるべし其れに従て其給料等も  
頗る高く大抵社長は年俸二万五千兩以上幹部重役は二  
万兩以上あり



○利益

ツラストが其營業に依りて得る利益、割合は實に巨大なるもの  
にて從來其分子たる會社若くは一個人の利益に居たる割合は  
は加ふる事と違ひあり、此結果は下記の三理由より生ずる  
才一合同より来る利益、才二大規模より来る利益、才  
三價格を保持し若くは高むる能力より来る利益  
才一合同より来る利益

(甲) 會社の合同は人材を合同せしむる人各々天才あり長  
所ありツラストは其中より最も才の大なるものを取  
術より長なるもの而已を撰任使役するの利あり  
(乙) 會社の合同と共に製造方法も合同せらる、ツラスト



(一) 卜は其の目録より利ある方法を取用するの利有り

(丙) 會社合同と共に各社の別を以てしたる特權特許もツラストは移る因にツラストは悉くの特權特許を全領するを得るあり

(丁) 合同は他方より放て競争の断絶を意味す競争なきてふ事のツラストは廢す利の大なるは云ふ迄もなし

才二大規模より来る利益

(甲) 首として教ふ可きは大量用を支出は苦まざる事あり

世間には其終より大利ある事を明白し下ら且費用の大なるが爲め着すせむざる事業少からば然るはツラストは二巨大の資本を擁するが爲め苟も割合上利益ある可き見込

立てば何事をも容易に开始し而して費額大なるも其製出品の数額大なるが故に其製出個の上には幾何の感觸をも與へざるなり即ちツラストは(一)最大なる俸給を支出するが爲め各部の業に最も堪能なる人物を雇聘するを得各ツラストとも其の勢力を争は向れも其道に掛けるは才一流の人物を撰任し考課の上放て決して間然する所ある事なし又或は智の化を物理學技術者を聘して製造法及び器械の發明改良を研究せしめ或は法律家を顧問として法人としての行方上に過謬をかりしむる等直接は利益をも間接は或る應遠に不利ある可き措置を爲し得るあり

(二) 其の能力を養ふ知識通信の蒐集を廣大ならしめ



駭然あるを以て

社会は關係未普と名付て廣く上下社会に亘る上  
内外新舊の購讀社会に派遣する物に調査探求、郵書  
電信の往復等を費用の煩著せずして行はるが故  
に其業務が繁する景況を其原料たる吾金融の  
下據等固より政治上社会上各個人の心懷を以て  
統一的知識統一的な實の爲に速に其を詳かな通せ  
らるべきあり

(六) 餘裕の資本は如何なる運輸機關其他器具  
材料の自己を以て用ふるものは代業未だなくバ  
自ら供給するを以て

下条に於て述ぶが如く本業は活少他の諸業も悉く自己の  
放り置ける他人に取らるる同様の利益をも自ら得取らるる  
自己の鉄道を敷くものあり船舶を運ぶものあり電信線等を架  
設するものあり

(三) 遠隔の地は支店を設くるを以て

本業を以て歐洲に支店を設け之を維持したるものは甚だ  
少く、ワラント時代には石油、ワラントを始め其他の諸  
ワラントとも費用の太なる耐へるる爲め著る効を奏したり

(七) 保存力競争力甚だ強し  
大産額の上は刻宛つるが爲めワラントが其諸産業上の損失の  
影響を感ずることは極めて微たなるものとして会社を立ち立ては



直ぐに覆没する可き大傷疾もワフストに至りては殆ど必之を感じ

ざるあり従て顧客得意尤の信用大なるは勿論當世を以て

して果敢の要置を行ふ氣を膽を具へしむ

又資本の逼迫なきが爲め利益を永遠に期する事を得せ

しめ見込買見込賣等も就て決して躊躇するを要せし以

て**事業者**の機敏を合し是迄先例なき大暴利を

博するを構ふるは

保存力と競争力の強きは無論其前敵在るに

て競争者現る時は最も激烈に且長く戦ひを倒す

易き石を以て卵を摧くの類にして弱者は遂に滅亡の

降服の外なく續てワフストは之を吞噬し益を以て其腹を

肥すなり各ワフストとも此吞噬の歴史を以てある

ものと云ふ之れ實に此種の一因なり

(一) 關係人の多數ある地方地對し各社會に對して

常をなすの便宜を爲するものと云ふきは決して旧時の會社

若くは個人の比にあらず蓋し其事業の表面に現はれ

ざるはワフストが此の便宜を爲するの多きもの確かに其

諸般の企望の成就する一大原因あり

才三價格を保持し若くは高むるを爲すの能力より

なる利益

已に競争が偶々之れあるに市站の大權を掌り統し張む

競争者と眼力、措くを要せざるを以て以上の價格を任意







と鐵割大なる利益を擧げたり其砂糖ツラストは合同  
製造所四ヶ所を閉ち石油ツラスト綿油ツラスト綿糸衣  
ツラスト等も過半の工場を閉鎖して敢て産額を減せざ  
るは皆人のちるやあり

石油ツラストの顧問は律家ト氏の独生だといふ

一千八百七十二年は桶の價一個二弗 三十五仙ありしが  
今も其製造所は其桶身五仙まで製出する年を三  
五十萬個の桶を要す故に此の年減價のこまツラストは  
毎二十萬万弗を利す

一千八百七十四年は罐の價三十仙ありしが今も日の  
新製造所は五仙以下あり毎二十萬万弗を利す罐の

数は二千六百個あり故に此の額に五萬四千弗を利す  
一千八百七十四年は本箱の代價は五仙ありしを今も  
ツラストは五仙まで製出する故に三十五仙ありしを  
節減を生ず其代價は五仙ありしを油槽、蒸溜器、ホル  
諸般器具の改良及び改良によりて利得したる所も大なる  
ものあり

石油を精製したる後、滓を殘すは皆人のちるやあり  
一千八百七十五年は此の滓は唯だ精油所の新炭を用  
ひ使用するに過ぎざりしがスタンダーは此滓を特別の注意  
を加へて研究の後、精油所に於けるセル（泥炭）の額一  
半を見ても、此の滓を之に依りて器械油、ランプ、蠟



其他数種の有用品を製造する處までを以て明に進んで  
之が大製造所を設立し大に産物利用を存しほるる至  
り此種の研究なる大製造所設立の地き小会社の信し  
ほるやみふらんや

以てウラストがウラストを占むるの一斑を以て學あり「尤も世  
るる表され結る各ウラストの配當は格外よきありバ  
大抵七分至一刻七八分の間にあるもの、然し然るに注  
意を要する處は何れウラストとも利益の法外なるを晦ま  
さんか存る資本額より大に直を存し結るるとして「石油  
ウラストは表面資本額を實に資本額の三倍とあり  
破産ウラストは四倍純油ウラストは五倍スキーウラストは

三倍其他就れも二倍乃至三倍の空株を占むるはよく中  
には五六倍の甚しきものもありと云ふ而して各ウラストは定規  
の配當の外に更に内資の増配當分は積立金或は増株等と  
を以て結ることは資本に依りてあるやあるは實際各ウラスト  
を通じて二割乃至四割位分の純利あるは決して疑を容  
る處からば五分を最高利とする米ふ能る三四割の利  
益とは之れ實にほ外の事ありあらず



